

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293400014		
法人名	有限会社 憩		
事業所名	グループホーム憩 新棟		
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1709-3		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成29年11月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お天気の良い日には施設周囲を30分程掛けて歩いてくるコースがあります。殆ど車が通らないところで、安全が確保でき、安心して歩くことが出来ます。そこではご近所の方と気軽に会話できる関係もできております。又周囲は田畑に囲まれておりますので、のんびりとお花や季節の移り変わりを眺める事が出来る気分転換の場所になっております。平成24年に開所した共用型認知症対応型通所介護(予防含む)も行っており、デイサービスを通して外部の方々との交流も図られて居ります。毎日14:00よりレクリエーションの時間を設け、体操やカラオケを行い各機能の低下防止につなげております。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は長く地元で暮らし、地区の役員や行政との交流も長く、ホームは地域の一員として認知されている。行政からの連絡や地域の行事予定なども漏れなく届き、利用者は行事などに可能な限り参加し地域住民と交流している。利用者は近隣を散歩したり、隣接している管理者宅の農地での収穫作業などに参加する事もあり、それらは利用者の楽しみであり、近所との交流にもなっている。生活リハビリに取り組み、個々の目標設定と評価を繰り返すことでADLの低下を防止し、寝たきりゼロを目指している。提携病院の支援のもと看取りも多数行い、家族の安心につながっている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人としての気持ちを持って生活している。散歩などでも気軽に声掛けをして親しんでいる。ご近所も、季節のお花を見せてくれたり、畑で出来た収穫物を分けて下さる等何かと心遣いをして下さる関係性がある。利用者が日々、笑顔で過ごせる関わりを重視しています。	理念は玄関に掲示している。「ゆったり楽しく一緒に」という理念に基づき、料理・洗濯などの日常生活をできる範囲で職員と共に行うほか、散歩や畑作業の折には地域の人との触れ合いを持つなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域とは10数年のつきあいで、地域の行事にも参加しており、お祭りの時にはお神輿がホームに立ち寄ってくれます。お雛様や兜なども近隣から提供されたもので、飾り付けにも協力して頂いています。	管理者がホームの隣に居住しており、地域とのつながりも強い。管理者を窓口としてホーム自体も地域の一人員となっている。地域のお祭り・敬老会に参加するほか、定期的な傾聴ボランティアの受け入れ、近所の人の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々はお会いしたり、会話の中で認知症の理解が進んでおります。又出掛けたりお買い物などで、他の方々とお話したりすることで、毎年少しずつ理解が進んでくださるようになっております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに開催しており、利用者の状態を毎回お伝えしております。そこでの理解から、要望や疑問質問なども出てきており、施設のケアの質の向上につながっております。	運営推進会議は、年間の事業計画・利用料金・職員体制・防火管理体制・協力医療機関についてなど、様々な報告と話し合いを行いサービスの向上に活かしている。行政や地区の役員、家族代表などが参加し、家族が行政や地域に直接質問できる機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の相談員が来所しております。利用者の状態を見て頂き、意見交換しながら協力関係を保っております。	2か月ごとの運営推進会議に市の高齢者支援課が参加しており、意見交換をしている。また、ホーム側からも情報提供や相談で市の窓口に行くなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて、身体拘束をしないケアを目指し、取り組んでおります。	門扉は施錠しているが玄関は開放されており、自由に庭へ出てくつろぐ事ができる。職員は「身体拘束」を理解しており、やむなく拘束が生じる場合は様々な検討を繰り返し、法令に則り時間を決めて家族の同意を得て行っている。	どうしても他に手段がないのか、定期的に見直して、拘束を当たり前としないことが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修の中で、何か虐待の項目に当たっているケアを行っているか再確認を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度が施設内でも該当者が出てきており、ご家族の関心が高くなっている現状を認識しております。再度、研修を行っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時、十分説明しております。その後の疑問や質問も随時受けつけている事を伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のご家族や受診同行されるご家族などおります。その際、率直な意見を言って下さいますので、ケアの質向上の意見として受けて今後に繋げております。又、2カ月に一回の運営推進会議の資料を各家庭に送付しています。	「ご意見箱」への投書や利用者からの意見はないが、家族からは面会時・受診付き添い時などに意見・要望を聞いている。必要に応じて電話で家族意見を聞いて運営に反映させることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の代表が朝の申し送りに参加することでその場での意見交換が出来る事と管理者を通して意見が反映されております。	施設長・管理者と職員は毎日の朝礼時に意見交換を行っている。そのほか年数回の懇親会にはほとんど全職員が参加し、意見交換の場にもなっている。管理者は日頃の会話の中からも職員の意向を把握し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設で働く職員が一体となって経営の健全化と満足感のある職場を目指すを基本方針としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やカンファレンスの充実を図りながら共有したケアが出来るように日々努力しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着の施設の認知症の勉強会があり、参加させて頂いたり、他の事業所との交流や勉強会も再度行っていきたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階では納得してサービスを受けられる方と、どうしても納得できないと自宅に帰る等の行動を起こす方と居ります。その際はケースによりその方が安心して過ごされるようにお話を聞きながら、納得されるまで対処していく方向で関係性を築いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりの不安な点や要望は、速やかに対応しております。ご家族自身からの要望を遠慮されている方には、成るべく面会をお願いしたり、認定調査の場を借りてご家族と意見交換しながら関わりを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階では心身の状態を観察しながら、精神的支援や身体的支援がその他に何が必要なのか見極めながら対処しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の障害があってもここでの生活はお仲間の方が寄り添う関係もみられますので、お互いに影響しあう関係が出来るようにその方に合った生活が円滑に行われるよう支援をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は入所されても関係性を持つと面会や受診、外食に出掛けたりと一緒に過ごす時間を大切にされている方も居ります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はどなたでも、宗教も問わずに制限しておりません。昔の友人が訪れる方もいらっしゃいます。	毎週のように家族や友人が面会に来る人もいます。面会者には必ずお茶とお菓子を出し、ゆっくり交流してもらえよう配慮している。住んでいた家のことが心配だという人も多く、ドライブして自宅を見て安心してもらうなどこれまでの関係性継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性の把握に努めながら、良い状態が保てるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談に応じる体制でおります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの一日の過ごし方は無理のないペースで生活されるように、個々の姿勢を尊重しております。それぞれの思いでレクリエーション活動や外出、散歩、お友達同士の間わりなどを見守っております。	入居時に情報を把握するために家族に「利用者プロフィール」等の記入を依頼している。また、日々の生活の中で職員が聞き取りたり把握した内容は記録として残し、ケアプランに反映させている。自宅を見に行きたいなどの希望にも個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報収集すると共に、入所されてからご本人やご家族との会話より、その人のありし姿の把握に努め日々のケアに反映されるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス会議にて状態把握に努めながらケアしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や日常の利用者の状況からニーズを把握し、日々の記録などをもとに全職員の意見を取り込みながらプランを作成し、実施内容を見直しのプラン作りに生かしている。	ケアプランは、家族の意見も含め全職員から意見を徴収して定期的に見直しを行っている。今年はさらに個別の状況に合わせた生活リハビリ項目を作成し、3か月ごとに見直しを行いADLの低下防止に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施した結果によってプランの計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向によって、支援の在り方を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターの活用は大きい資源となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理は隔週で主治医に往診して頂いており身体変化が見られた時には、受診して対処しております。入所前からの他の主治医の方に於いては継続して健康管理して頂けるように連携を図っております。	月2回契約医が往診し、ホームの看護師と共に健康管理を行っており、訪問歯科を利用する人もいます。体調の変化が見られた時は看護師と連絡を取っており、場合によっては医師の診察もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務しており、情報を共有相談して、状態の変化に対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院はご家族と連携しながら、退院の際には退院に向けて調整を図っております。早期退院に向けても調整しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた看取りの方針を契約時に説明しております。利用者やご家族が安心して終末期を迎えられるように、取り組んでおります。	看取りに関する指針は入居時に説明を行い、家族に同意書をもらっている。重度化や看取りの時期と判断された場合、医師の意見を家族に説明し、話し合いを行い対応を決めている。日々変化する家族の意向もくみ取り、今年度は数名の看取りをチームで取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て年1回の普通救命講習の研修に参加しております。日中や夜間に於いても緊急の対応が出来るように、全職員意識を高めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの防災自衛訓練を年1回と施設内防災訓練で、年2回行っております。防火管理者のもと防災計画書を作成して行い、災害時に備え、ヘルメットや電灯、缶詰、水、乾パン等を貯蓄している。	施設内訓練として火災想定訓練を行った。消防署立ち合いの訓練は12月に実施する予定である。消防署員からの指摘については、すぐに改善するようにしている。備蓄品も用意されている。	目標として掲げた夜間時(夜間想定)の避難訓練はまだ未実施である。また火災だけではなく地震や水害などを想定した訓練の実施も期待したい。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	成るべくご本人を傷つけないように言葉の面や対応に気を付けながら、プライバシーに配慮したケアを心がけている。	一人ひとりに合わせて声かけをしている。状況に変化がありADLが下がっても、自分自身でやりたいと思う本人の気持ち、誇りを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何らかの訴えが見られた時には、ゆっくり聞いていくように、訴える事が出来ない時には行動や状態を見ながら、非言語的表現をくみとり対処していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状態に合わせて対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の好みや、理美容面に於いても本人の好みを優先しております。又、ご家族の支援もありますので、良い状態を保っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様の一番の楽しみですので、希望を取り入れていくようにしており、一緒に台所に立つなど有する能力に於いて、引きだしております。	食事には特に力を入れており、食べる「楽しみ」を入居者と共に作っている。隣接している管理者宅の農地での収穫作業、調理の下準備、食器洗いなど、できる範囲で職員と一緒にいたり、イベントに合わせて外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を記録し、そこから過不足のないように確認しながら行なっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の支援が入りますが、個別の能力に合わせて行っており、日中は個人の自覚に任せております。朝・昼・夕食後口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄の状態を確認して個別の援助形態を実施しております。日中は時間毎のトイレ誘導を行い、夜間も失禁や尿量の多い方は誘導を行っております。	現在ポータブルトイレを使用している人はいない。夜間帯に関してはおむつを使用する利用者がいるが、日中はトイレで排泄ができるように誘導を行い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の為、食事や散歩・体操などの活動に取り組んでおりますが、どうしても便秘改善が出来ない時は、便秘薬の服用で対処しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴介助を行っております。その中で、女性利用者で仲の良い人同士で入浴されている方もおります。	仲の良い人同士ふたりで入浴する利用者もあり、入浴を楽しみにしている。浴槽はヒノキ作りで香りでも楽しむことができる。冬場は皮膚の乾燥予防と楽しみのために入浴剤を使用するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の時間を大切にしておりますが、1日の中で、皆さんと一緒に活動に参加して気分転換や会話などして頂けるように声かけを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体の既往や薬など表にしたものを常に置いております。薬の変更は日々の申し送り徹底できるようにしております。身体状況の変化を個々の看護記録に記載し、いつでも見られる様にしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレク活動に参加して頂いたり、外気に触れたり、ご家族と外出したりして気分転換を図って頂くように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	車椅子対応の利用者が増えているが、気候がよければ少人数で散歩やドライブに出掛けております。また、大型バスで外食に出掛けたりしております。	年間行事計画を作成しており、季節ごとのお花見や大型バスを使ったドライブにも出かけている。天気が良ければ散歩やドライブにでたり、中庭で外気浴もすることもある。地域行事にも参加するなど外出する機会を多く作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方は出来ませんので、行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望が見られた時には、その方の能力に応じて支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、こまめな清掃と明るさを大切に環境設定をしております。季節ごとの空気の循環や湿度管理にも配慮しながら、健康を維持し、良い空間で過ごすことを心がけております。	日中は居間で過ごす利用者が多い。そのため室温管理に努め、加湿器や空気清浄機を使用して居心地のよい環境になるよう気を配っている。寒い日は服を一枚多く着用してもらうなど、季節感は大事にしている。また、トイレ清掃をこまめに行い、臭気がないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと集う空間でもあり、お一人でも過ごせる空間としてのリビングにはソファを置いて誰でもくつろげる様設置してます。廊下にもソファがあり、そこではゆったりとくつろぐ事が出来る居場所になっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向が反映された部屋作りとなっております。又今の使い慣れたものを用意し安心感のあるお部屋となっております。	入居時に説明し、本人が過ごしやすい居室になるよう馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。大きなクロゼットが設置してある居室は清潔である。共用空間との温度差がないように温度管理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関も外はスロープに、中は段差なくスムーズに足運びが出来る様に作られております。手すりを用いて成るべく、自立した生活が営めるように、各所に配置しております。		

【評価機関】